

はーもにい

Harmony

南相馬市

「はーもにい」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。



主な内容

CONTENTS

■ インタビュー特集

- 企業は人材 男女ともに働きやすい環境づくり
- がんばる女将さん 地域の力で復興を!!
- 親も子も一緒に楽しんでいい汗かこう

■ 第2次南相馬市男女共同参画計画を策定しました

■ 男の木工教室「HOHP」のみなさんより立て看板の提供



インタビュー特集

企業は人材 男女ともに働きやすい環境づくり

東日本大震災から4年が経過しました。震災後いち早く鹿島区の仮設店舗で事業を再開し、みなさんに元気をあたえた企業を紹介いたします。



野口さん(前列中央)とスタッフのみなさん

会社名 **株式会社 いんぷお.** (大熊町)
設立 平成15年7月23日
(情報発信誌として設立)
スタッフ 4名 男性2名 (うち1名は郡山オフィス勤務)
女性2名
代表取締役 ^{のくちみさこ}野口美佐子さん (大熊町出身) に
お話を伺いました。

Q：震災当時、震災後はどうなっていましたか？

震災当時は、大熊町から郡山市に避難しました。震災後は、鹿島区仮設店舗に事務所をおき営業しています。

Q：震災後3ヵ月という早い時期に事業を再開されてどうでしたか？

情報誌は地域のみなさんに育ててもらった企業なので、みなさんに元気になってもらいたいという思いから、いち早く再開しました。震災後初めて情報誌を配布した時は、涙を流して喜んでくださった方もいました。

Q：最初からこのお仕事だったのですか？

最初は、ニューヨークで人材派遣業を経営しておりましたが、平成13年9月11日アメリカ同時多発テロ事件により事業継続困難となり、日本に戻ってきました。

Q：日本に戻ってきて情報発信誌 info「いんぷお。」をたちあげたきっかけは？

子どもが病気になった時、地域の方々の情報により、いいお医者さんを教えてもらい助けられました。その時に、みなさんが知っている情報をそのままにしておくのはもったいないと思い、みなさんの情報が集まるコミュニティの場をめざした情報誌を制作するようになりました。

Q：起業したときのご苦労は？



無料情報誌は、広告を掲載して情報誌の制作費を調達するのですが、その仕組みを理解していただくことが難しかったです。

発行当初は「なぜ女性が始めるのか」「無料なのは何かあるのではないか」「お金を持っている人の道楽ではないのか」などと言われました。

でも2、3年継続していくうちに周りが少しずつ理解してくれるようになりました。

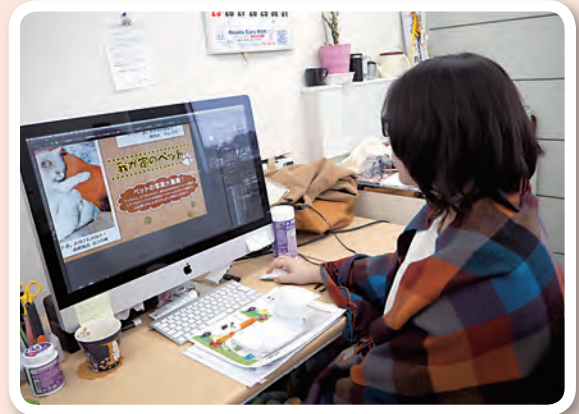
Q：男女共同参画を意識したことはありますか？

特に意識したことはありませんが、情報誌は、男女・年齢などに関わりなく広い範囲で読んでいただいていますので、男性の視点、女性の視点ともにそれぞれのポジションで才能を発揮してもらっています。

Q：会社の勤務体制は？

勤務体制は基本的に残業はないですが、オーバーした分は勤務時間で調整するフレックスタイム制をとっています。

タイムスケジュールは自分で立ててもらっていますので仕事は速いですし、モチベーションもあがり仕事の能率もいいです。



Q：会社の目標は？

小さいながらも企業は人材だと思っております。ようやく志を共有できるスタッフたちとめぐり会えたことで、本当の再開ができたのだと思います。

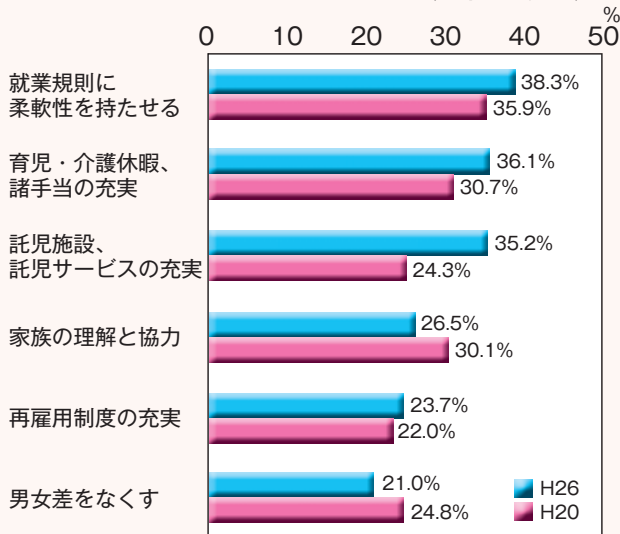
みなさんに育ててもらった会社なので、長く愛していただける会社でありたいです。

取材を終えて

男女共同参画を意識していなくても、社員のみなさんがそれぞれの能力を発揮でき、また、働き方にあった職場環境を整える、という姿勢が自然に男女共同参画につながっていると感じました。一人ひとりの豊かな人生は「人を活かす」ということから始まるのではないのでしょうか。

南相馬市男女共同参画に関する市民意識調査から

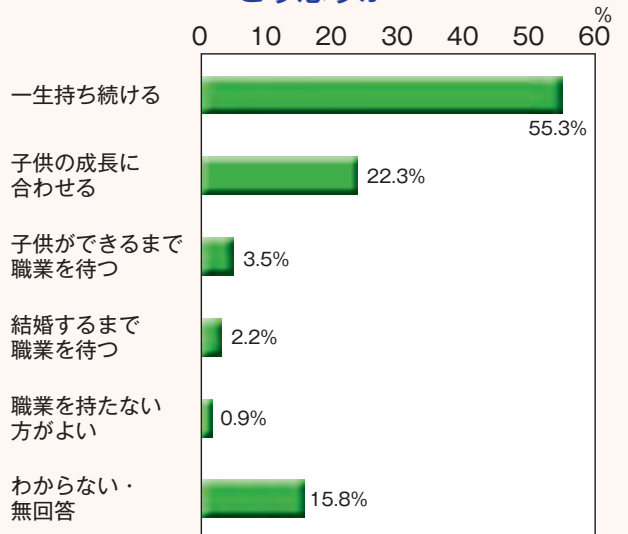
女性が働き続けるために必要なこと (上位6項目)



平成 26 年 9 月実施

「就業規則に柔軟性を持たせる」、「育児・介護休暇、諸手当の充実」など、家庭と仕事を両立できる支援制度の整備を求める回答が多くみられました。

女性が職業を持つことについて どう思うか



平成 26 年 9 月実施

女性が職業を持つことについては、半数以上の方が「一生持ち続ける」と回答しています。

がんばる女将さん 地域の力で復興を!!

小高駅前の花壇に、たくさんの種類の花を植え、きれいに咲かせていた小林さんにお話を伺いました。小林さんは震災前に小高区で旅館を営んでいました。



こばやし ともこ
小林 友子 さん (双葉屋旅館女将 62歳)

住 所 小高区東町

居 住 原町区の仮設住宅

ご主人と2人で放射能測定センター南相馬に勤務

Q：なぜ小高駅前に花を植えようと思ったのですか？

震災後、誰もいない、色のないさびしい街をずっと見続け、せめて花でも植えて街を明るくしようと思い、駅前広場の花壇に植え始めました。現在は植える範囲を広げ今日まで続けています。



小林さんと一緒に活動しています

Q：1人では大変だと思うのですが、いかがですか？

初めは1人で花の手入れをしていましたが、それを見ていた近所の方や、知り合いのボランティアの方々が手伝ってくれるようになりました。

Q：花を植えはじめてどうでしたか？

花の手入れをしていると小高駅を訪れる全国の方々、マスコミの方々と小高の現状を話す機会があり、これまで出会うことのなかった人たちと知り合いになりました。花を植えはじめたことにより私自身の心も体も元気になり、「明日も頑張ろう」という気持ちになります。

Q：旅館の再開について

1人でもお客さんが来てくださるなら、そして来てくださった方がホッとできる様な場所に、との思いから兄夫婦と私たち夫婦4人で話し合った結果、旅館を改修し、再開することを決断しました。今は、お客様を迎える準備をしているところです。

Q：旅館業への思い

私が旅館業を続ける決断ができたのもアドバイスをしてくれる主人の支えがあるからです。平成28年度からは、小高区においても宿泊可能になる予定なので、常連だったお客さん、初めて泊まるお客さん、久しぶりに小高に帰って来たお客さんを笑顔でお迎えしたいと思っています。毎日笑って元気に過ごし、次の世代に引き継いで行きたいと思っています。

取材を終えて

昨年の野馬追の前日、小高駅前に行ってみると、小高駅前の花壇にたくさんの花が咲き、野馬追の旗も立てられ、“街が生きている”と感じたことが今回の取材のきっかけでした。

誰も故郷を忘れる人はいないと思います。いつでも帰ってこられる故郷にしておきたいという思いは、きっと伝わるはずです。小林さんの笑顔とお花で、やさしく迎えてくれるでしょう。旅館の女将さんとして以前にも増して元気いっぱい活躍され、旅館が再開されることを楽しみにしています。

親も子も一緒に楽しんでいい汗かこう!!

初心者の方でも安心してフットサルを始める事ができる女子フットサルチームを紹介します。震災後は活動を休止していましたが、活動再開を希望する人が増え、平成26年8月から再開しました。



チーム名 **Three G (スリー ジー)**
Get goal girls の略

監督 すえなが とおる 末永 亨 さん

メンバー 小学6年生以上の女子とお母さん(19名)

練習日 毎週日曜日 大鷹小学校体育館

はつらつ元気なお母さんたちにお話をお聞きしました。

Q：フットサルを始めたきっかけは？

- Oさん：運動不足の解消と息子がやっているのを始めました。息子がスポーツ少年団でやっていたのですがルールが分かりませんでした。息子の気持ちが少しでも理解できればと思い、私も始めました。
- Kさん：他のお母さんに勧められて入りました。練習が日曜日なので子どもも連れて行けると思い始めました。あとから子どもも入りました。
- Mさん：娘がやりたいと言ったので私も運動不足解消もかねて始めました。今では夫も一緒になって楽しんでます。

Q：フットサルを始めてよかったことは？

- Oさん：息子とのつながりが深くなり、会話も増えました。お互いにアドバイスするようになり、コミュニケーションもとれて楽しいです。
- Kさん：今まで、子どもとは一方的な会話しかなかったのですが、フットサルを始めてから共通の会話ができるようになりました。実際やってみて難しいと分かり子どもの気持ちも理解できるようになりました。
- Mさん：子どもと一緒に同じスポーツをする楽しみができました。

親と子のコミュニケーションを深めてくださった監督さんにお聞きしました。



監督とお母さんたち

Q：監督の目標とチームに対する思いは？

高平にも女子サッカーチームがあるので練習試合をやっていますが、これからは福島や仙台に遠征試合に行きたいと思っています。チームとしては、成績とかではなく、みんなで楽しく長くできればいいと思っています。興味のある方はぜひ参加してください。

取材を終えて

親子のコミュニケーションをとるのが難しい現在、親も子も一緒になって汗をかく、子どもの気持ちに寄り添えるこの時間を大切にして欲しいと思います。

第2次南相馬市男女共同参画計画を策定しました

市では本年3月、誰もが一人の人間として尊重され、お互いを認めながら責任を分かち合い、自らの意思によってあらゆる分野において対等な立場で参画する機会が確保され、個性と能力を十分に発揮できる社会を目指し、「第2次南相馬市男女共同参画計画」を策定しました。この計画の期間は、平成27年から平成31年度までの5年間です。

みんなの力で男女共同参画社会を実現しましょう

家庭では

- * 家事、育児、介護など家族みんなで協力して担いましょう。
- * 子育てにあたっては、一人ひとりの個性と能力を伸ばすよう努めましょう。
- * パートナーなどに対する暴力は、重大な人権侵害です。絶対にやめましょう。



職場では

- * 働く人の能力と意欲を活かせるような職場づくりを進めましょう。
- * 男性も女性も育児・介護休業などを取りやすく、復職しやすい職場づくりに努めましょう。
- * セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの防止に努め、明るい職場づくりを推進しましょう。
- * 方針決定過程への女性の参画を進めましょう。



学校では

- * お互いを認め合い、個性を尊重する教育を推進しましょう
- * 家庭と学校が協力して、命の大切さや正しい性教育をしましょう。



地域では

- * 積極的に地域活動やボランティア活動に参加し、地域での交流を広めましょう。



男の木工教室「HOHP」のみなさん ありがとうございます

昨年、男女共同参画情報紙に掲載させていただきました、男の木工教室「HOHP」のみなさんから「花いっぱい運動」の立て看板を提供していただきました。立て看板は市内各小学校にお渡ししました。ありがとうございました。

この情報紙は、南相馬市男女共同参画計画推進委員会広報・情報誌部会の委員が企画・編集しました。

編集後記

様々な考え方に出会わせていただき、有意義な時間をありがとうございました。読者の皆様はいかがでしたでしょうか。この情報紙を通して、同じように「有意義な出会い」を感じていただけたら幸いです。この出会いが「スタート」になりますように。今回、取材にご協力くださいました皆様、本当にありがとうございました。(武藤)

「は～もにい」へのご意見・ご感想などをお寄せください。また、地域で頑張っている方、男女共同参画を推進している職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同子ども課 〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27

TEL / 0244-24-5215 FAX / 0244-24-5740

E-mail : danjokodomo@city.minamisoma.lg.jp

ホームページ : <http://www.city.minamisoma.lg.jp/>